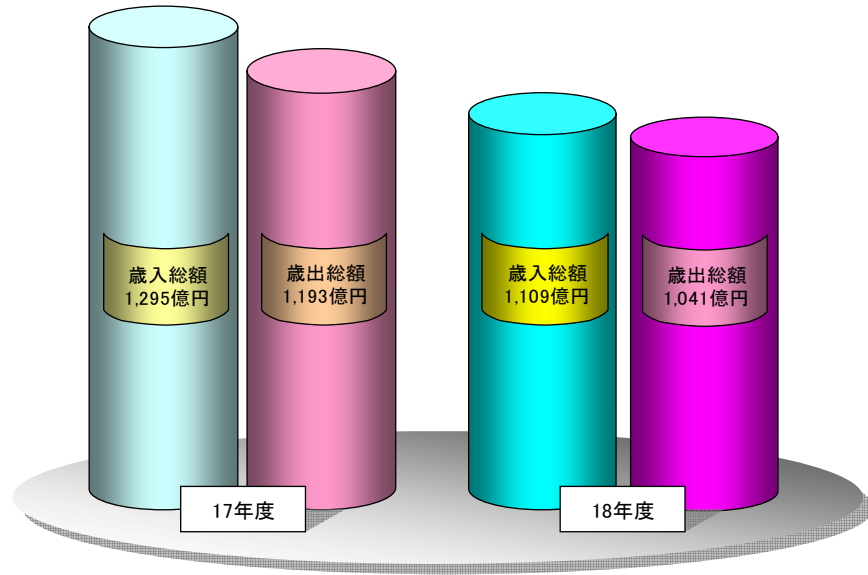


# 18年度決算 港区財政レポート — 公会計手法による分析 概要版 —



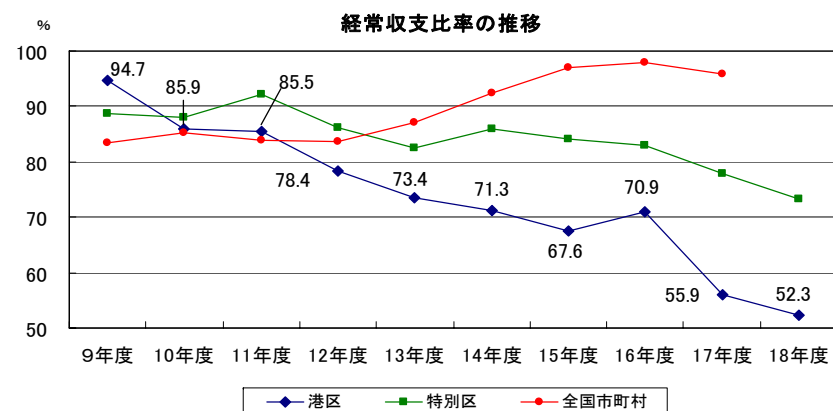
18年度決算額は、17年度と比べ歳入、歳出とも減少しました。



## 財政指標

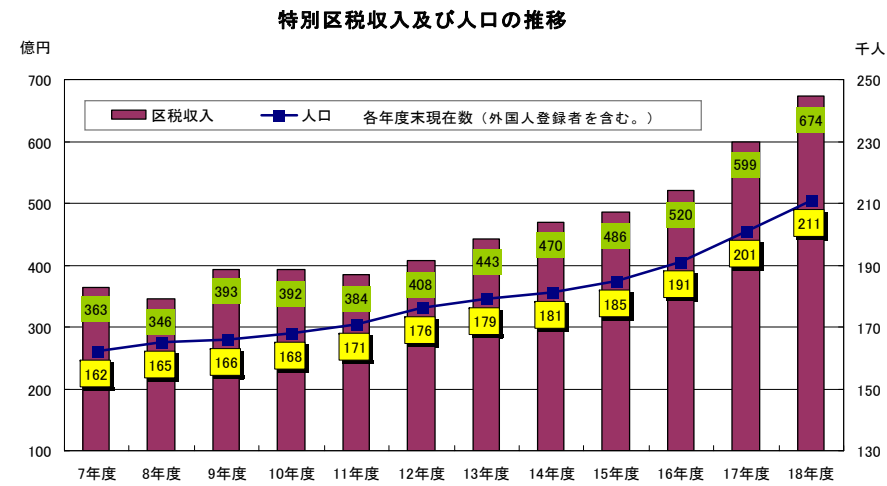
経常収支比率は、17年度に引き続き50%台となっており、より弾力性に富んだ財政状況で推移していることを示しています。

※経常収支比率 一般に、この値が低いほど望ましいとされています。



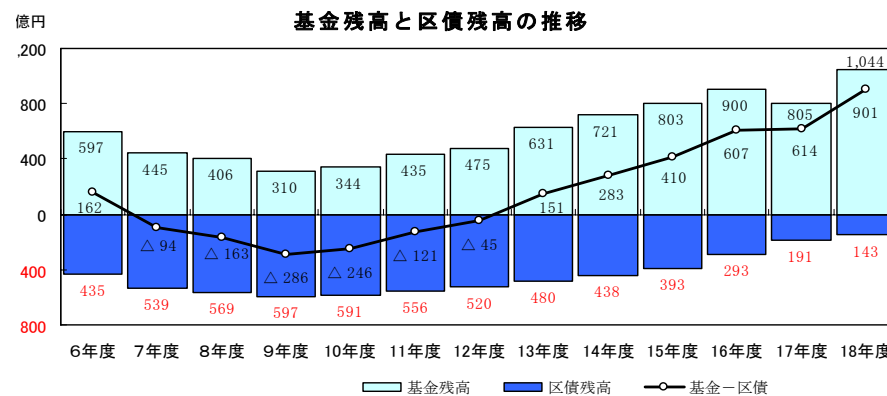
## 歳入

近年の人口の増加等により、特別区税収入が大幅に増加しています。



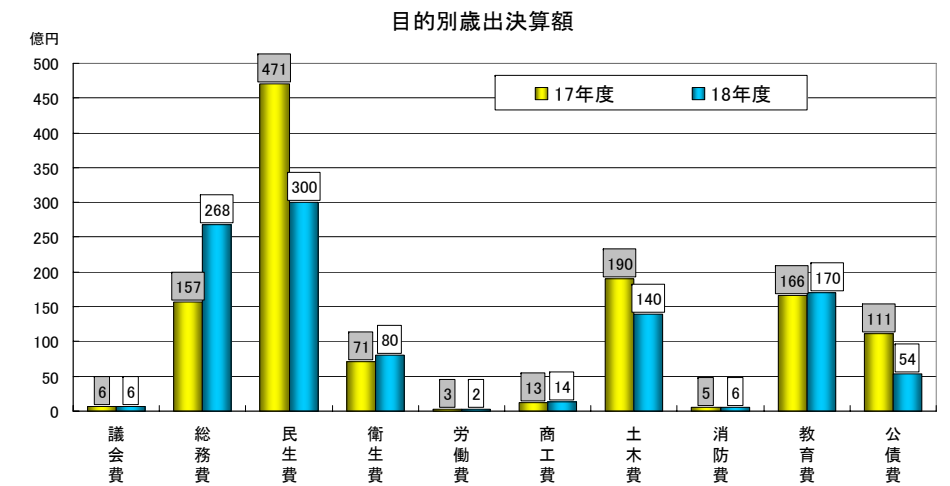
## 基金・区債

基金(区の貯金)残高は、施設整備のための基金に積極的に積み立てた結果 1,044億円となりました。また、区債(区の借金)残高は、17年度に引き続き積極的に償還を行ったため、大きく減少しました。



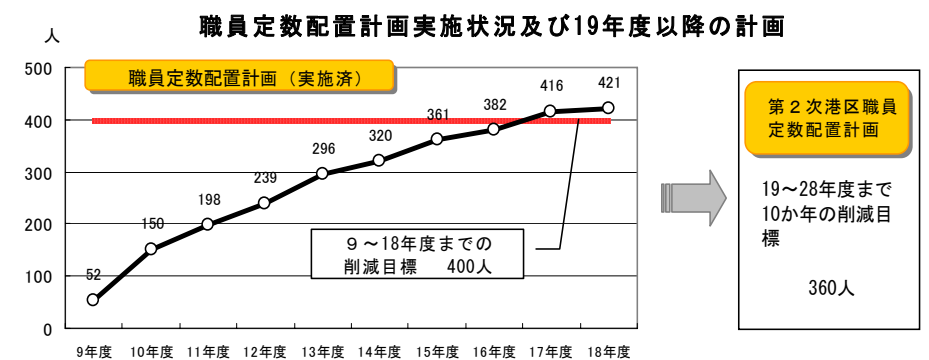
## 歳出

17年度に行った施設用地の取得費の減により、民生費及び土木費が大幅な減となった一方、基金への積立てや退職手当の増により、総務費が大幅な増となっています。



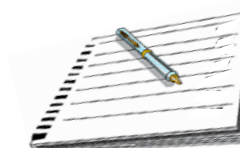
## 人件費

「職員定数配置計画」の達成により、職員人件費の抑制が図られました。「第2次港区職員定数配置計画」の取組みにより、引き続き職員人件費の抑制に努めていきます。



## 事業別活動報告

事業	行政コスト	収入	純行政コスト
I 証明書自動交付機	総額 155 百万円 1通あたり 814 円	36 百万円	総額 119 百万円 1通あたり 625 円
II 保育園	総額 4,202 百万円 園児1人あたり月額 204 千円	457 百万円	総額 3,745 百万円 園児1人あたり月額 182 千円
III 電線類地中化	総額 675 百万円 区民1人あたり 3,205 円	81 百万円	総額 593 百万円 区民1人あたり 2,819 円
IV 図書館	総額 1,814 百万円 区民1人あたり 8,617 円	214 百万円	総額 1,600 百万円 区民1人あたり 7,599 円



問い合わせ  
港区総合経営部財政課  
電話 3578-2111 内線2100

# 18年度決算 港区財政レポート — 企業会計手法による分析 概要版 —

「公会計」に基づく  
決算書

当年度の現金の収入と支出はわかりますが・・・

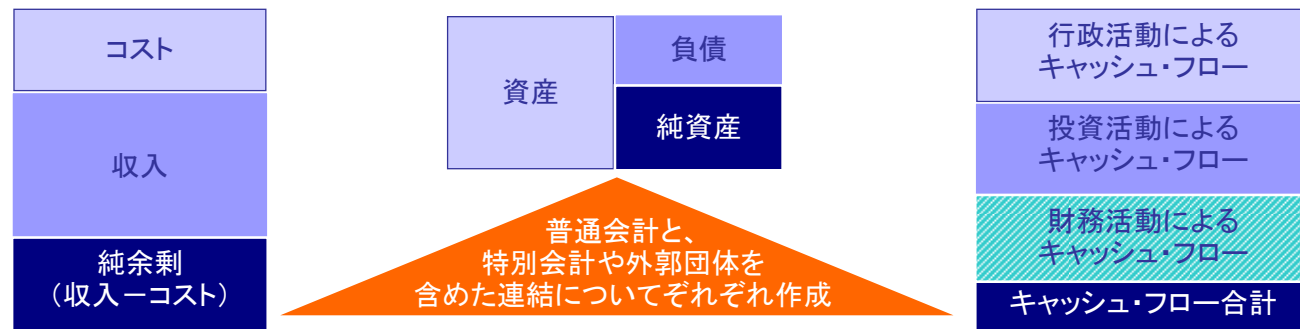
- 過去から蓄えてきた資産や、将来の負担がわかりにくい
- 行政サービスに実際にかかったコストがわかりにくい などの問題があります。

そこで 港区で

発生した費用や収入に基づく「企業会計」手法によっても  
分析し、財務諸表を作成・公表しています！

## 【 企業会計とは？ 】

- 行政サービスのコストと収入をみる「行政コスト計算書」
- 資産と負債のバランスをみる「バランスシート」
- 現金の収支をみる「キャッシュ・フロー計算書」

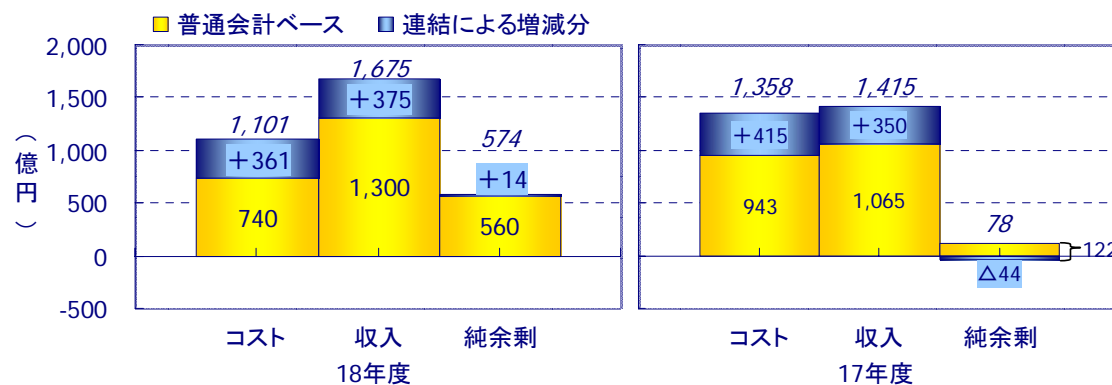


## 【 行政コスト計算書 】 収入の範囲内で行政サービスを提供

18年度は、普通会計・連結ともに、行政サービスの収入がコストを上回っており、収入の範囲内で行政サービスを提供できていることがわかります。

18年度は、人口の増加に伴う区税収入の増などにより、17年度と比べて収入が増加しました。それとともに、行政サービスの提供にかかるコストの圧縮にも取り組んだことなどから、普通会計・連結ともに、17年度と比べて、純余剰が大幅に増加しました。

● 普通会計と連結の行政コスト計算書の概要



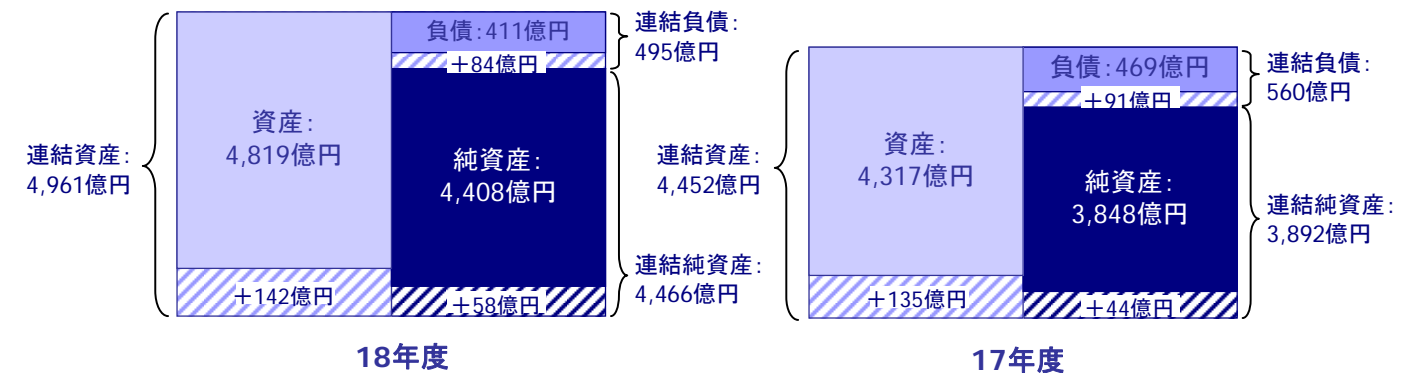
(※) 連結の純余剰には、18年度は外部株主利益及び特別利益等(13百万円)、17年度は外部株主損失(20億円)が足されています。

## 【 バランスシート 】 健全な区の財政

18年度は、将来へ引き継ぐ資産から、将来の負担である負債を差し引いた純資産が、普通会計で4,408億円、連結で4,476億円となりました。普通会計と連結ともに、資産は負債を大幅に上回っており、区の財政は健全であるといえます。

18年度は、土地の購入や建物の改修、将来への備えとして基金への積立など、積極的に投資を行う一方、継続的に区債の返済も行いました。これにより、普通会計と連結ベースともに、17年度と比べて、純資産が増加しました。

● 普通会計と連結のバランスシートの概要



(※) 連結の純資産には、平成18年度及び17年度ともに、外部株主持分(9億円)が足されています。

## 【 キャッシュ・フロー計算書 】 安定した資金繰り

18年度は、普通会計・連結ともに、行政活動による現金の収入で、投資活動と財務活動の現金の支出を賄うことができおり、区の資金繰りは安定しているといえます。

18年度は、区税収入や保険料等収入の増により、行政活動の現金収入が増えましたが、将来に備えた基金への積立の増などにより、投資活動の現金支出も増えました。これにより、17年度と比べて規模は縮小しましたが、普通会計・連結ともに、現金収支の余剰が生じました。

● 普通会計と連結のキャッシュ・フロー計算書の概要

